

平成 21 年度 自立支援協議会 相談支援部会 後期活動報告

1. 活動目標
- | | |
|-----------------|---|
| 発達障害者への支援 | 地域の継続した支援方法について、検討 |
| 高齢障害者への支援 | ケア 24 との連携検討、介護保険のサービスの理解、高齢による生活の困難を把握 |
| 学齢障害児を抱えた家族への支援 | 来年度へ |

2. 今年度の活動（後期）

	日 時	部会の内容	WT & 施設見学
第 5 回	11 月 26 日(木) 9:30 ~ 12:00	発達障害の方の事例報告及び 支援検討	
第 6 回	12 月 10 日(木) 9:30 ~ 12:00	発達障害の方の事例報告及び 支援検討	
第 7 回	1 月 14 日(木) 13:30 ~ 16:00	発達障害の方の支援と連携先	施設見学 GH (19 か所) 2/8 ~ 19
第 8 回	2 月 18 日(木) 13:30 ~ 16:30	地域移行部会との合同部会	施設見学 マイルドハート 高円寺なでしこ・ほのぼの 3/8・18

3. 施設見学

行き先	目 的	参加者
文化学習協同ネットワーク	発達障害者支援の現状と課題	3 日間 16 名
区内グループホーム・ケアホーム	利用者・世話人との関係作り	2 週間 19 か所 延 51 名
マイルドハート高円寺なでしこ・ほのぼの	新規資源見学(高齢者・障害者複 合施設)	2 日間 延 22 名予定

4. 平成 21 年度の取り組みと課題

前期は、介護保険に利用者が切り替わる際の困難を理解し、軽減するために、包括支援センター(ケア 24)とのスムーズな連携を長期目標に、短期目標として今年度、9月に交流会を開催した。準備をグループワーキングとし、事例を出し合い、課題を検討した。打ち合わせ会議は、グループリーダー、司会者、ケア 24 幹事会と適宜 10 回以上行い、事前アンケート実施、資料作成(事務局)等、9月の開催を迎えた。こうして開催できたことは目標であったが、そこにいたるプロセスも私たちには、重要だったと考える。相談支援事業所として、ケア 24 との必要な連携を検討していく道ができたと感じている。課題も多い。相談支援事業所の存在が知られていなかったり、介護保険での介護支援専門員の役割と障

害の方への生活支援や自立支援法の相談支援専門員の役割の違いを埋めていく作業が今後
も必要だろう。来年度も形体は変わるかと思うが、引き続き、交流をしていきたい。

後期は、発達障害の方への支援の状況と課題を、連携をテーマに報告を行なった。(資料
3参照)発達障害の方の支援は、障害の受容や人生の再構築など、長期に継続していく場
合が多く、一相談支援事業所だけでは、かなり難しいといえる。地域の資源を増やして
いくことも課題だが、関係者のネットワークを構築して、地域の見守り・支援システムが必
要と思われる。

施設見学について 今年度は、複数の担当者制にしたことで、役割分担ができ、GH一
斉見学などの規模の大きい展開ができた。(詳細は見学担当より)世話人の方や世話人情報
交換会の協力を得て、19施設のGHと交流でき、利用者の様子の把握や世話人の業務の悩
みを共有できたことは、相談支援事業所にとって、大変有意義だったと考える。双方とも
に反響が大きかったので、来年度も継続したい。

5. その他

今年度取り組めなかった学齢児を育てている家族への支援は、来年度の課題とした。ま
た、福祉事務所との役割分担や相談事業所のそれぞれの役割確認は、今後も検討していく
必要があると考える。

(相談支援部会 春山陽子)